

## 『国際経済』執筆要領

1. 論文の使用言語は日本語とし、字数は 20,000 字以内（図表、注を含む）とする。
2. 論文の表紙には、論文タイトル、著者名、著者の所属先および連絡先、200 字以内の要旨、キーワード（5 個まで）を記載する。なお、著者が複数の場合には、連絡担当の著者を明記する。
3. 謝辞を記載する場合は、表紙ページに記載する。
4. 表紙ページの次ページから本文を始め、本文の後に参考文献を載せる。なお、数学付録等の補論がある場合は、参考文献の前に載せる。
5. 論文の末尾にローマ字表記の著者名と所属機関を記し、英文タイトルおよび 100 語以内の英文サマリーを添付する。
6. 注は最小限に抑え、付す場合には各ページに脚注として記載する。注には通し番号を付し、1), 2), 3), … のように右カッコ付きの半角数字で記載する。
7. 提出原稿は上下左右の余白を十分に空け、ダブルスペースで記述し、ページ番号を記載する。
8. 節、項の見出しの付番形式は原則として以下のようにする。
  1. ○○○○○
  2. ○○○○○
    - 2.1 △△△△△
    - 2.2 △△△△△
      - 2.2.1 □□□□□
      - 2.2.2 □□□□□
      - …
9. 句読点については、句点は「。」読点は「,」と表記する。
10. コンピュータで作成した外字およびパーソナル・コンピュータの機種に依存する特殊文字の使用は避ける。
11. 数式はなるべく簡潔に表記すること。また、文中で数式を用いる場合には、 $a/b$ ,  $a/(b+c)$ ,  $a/(b+ c/d)$  などのように 1 行にすることが望ましい。
12. 数式に番号を付す場合には、(1), (2), (3), … のように半角文字で付番し丸括弧で囲むこと。また、式番号は右寄せで付ける。
13. 図・表は本文とはページを改め、1 枚につき 1 点を作成し、挿入箇所を本文中に明記する。
14. 参考文献の表記は、以下のような形に従わなければならない。

(著書)

Grubel,H.G. and P.J.Lloyd (1975), *Intra-Industry Trade: The Theory and Measurement of Trade in Differentiated Products*, Macmillan.

小島清 (1989), 『海外直接投資のマクロ分析』 文眞堂.  
(論文)

Ohyama, M. (1972), Trade and Welfare in General Equilibrium, *Keio Economic Studies*9 (2): 37-73.

若杉隆平 (2009), 「国際貿易と企業: 理論・実証研究の新展開」『国際経済』第 60 号, 133-153 頁.

木村福成 (2009), 「東アジア経済の新たな潮流と雁行形態論」池間誠編『国際経済の新構図』 文眞堂.

なお, 本文中に参考文献を引用する場合には, 小島 (1989), Ohyama (1972) のようにする。